

伝統文化の発展と衰退



地域の伝統文化の担い手育成の課題

報告書 ④

会報
獅子の如く
ししのごとく

2023年8月25日 地域版
第36号 発行
獅子の如く編集部

発行責任者 木村 信彦
編集 清水 美穂
西片 里紗
監 修 石田 陽一
協力 吉祥院六齋保存会

一 精神的充足 六齋の発展と衰退

子どもたちがどのような要因で六齋念仏に関わっているのかを明らかにすることによって、六齋念仏の衰退と現状、そして、将来的な発展について考察することにする。

先述のとおり、明治期から戦前における吉祥院六齋念仏は、農業との関係上、六齋念仏への参加は強制的なものであった。

六齋念仏の関わりが強制参加という側面以外にも、参加者自身が精神的充足を得るという側面もある。

戦後、吉祥院地域に八組の六齋組が伝承されてきたが、中でも菅原組(南条)には六齋が行えない厳しい時代があった。

氏神とする吉祥院天満宮の氏子でもあるため、どうしても六齋奉納を行いたいという意識によるものが強い。

さらには、南条地区

の住民が六齋念仏に参加する要因の一つに、農業との関連による強制的参加という要因と、参加者自身が六齋奉納を通して精神的充足を満たすことが言える。

精神的充足を満たす傾向は、担い手世代である小学生の世代においても顕著に現れており、子どもたちが子ども六齋会に参加する理由を聞くと「天満宮の舞台上に上がられてうれい」「大勢の前で太鼓を叩けて楽しい」という。

大勢の人前で演じることによつて得られる精神的充足こそが子ども六齋会に参加するための主要な要因であると考えられる。

子どもたちの中には、最初は上手く太鼓を叩けなかったり、舞台上に上がれず泣いたり、指導が厳しくて来なくなったり子どももいたが、今では「保存会と共演でき、大勢の人から拍手をもらうのうれい」という話を聞く。指導する側も丁寧に

やさしく教えることで子どもたちが参加しやすい環境づくりに配慮しているという。

他の保存会からも同様の話を伺うことができた。

「私たちの子ども頃は、稽古に行くところ褒美にうどんやおにぎりを食べさせてもらったので嬉しかったが、今の子どもたちは、舞台上に上がって拍手をもらうことが嬉しいと言ったり、小さい頃から舞台上に上がって拍手をもらうことを覚えてもらい、優しく育てるやり方が大事だ」という。

このことから現在の六齋念仏の活動に携わる際の最大の要因は精神的充足であることに注目すべきである。

二 各世代間の意識格差

子ども六齋会の発足によって担い手育成が行われているが、各世代間における意識格差に注目し、その中で発生している問題を取り上げることにする。

戦後の厳しい時代を経験した団塊世代にとっては、若年期に徹底的に厳しい指導を受けることで六齋の技術を習得するのは当然のことであった。

かつての指導方法は、明確な効果がないにも拘わらず、指導する側の好みや自論、思い込みによって強要されていた指導法が通じたのも、参加が強制的であったことからである。

現在は、強制参加ではなく、しかも指導法が厳しいなどの理由で離脱者が生じてしまうため、指導する際にはなるべく優しく丁寧に教える必要がある。

何よりも指導に当たるときは、子どもたちを尊重した上で自主性を重んじることが必要になる。

子どもたちは、自己実現や精神的充足のために子ども六齋会に参加している傾向が強いのであるが、例えば、厳しく指導されることや、活動そのものに飽きてしまうことや、中、高校生になればクラブ活動や学習塾などに関心が移ってしまうことで、活動から離れてしまふという問題も発生している。

参加することが強制でないため、様々な理由によって離脱者が生じるのは当然であると言える。しかし、天満宮への六齋奉納などの出演することになると

事情が違ってくる。七十代以上の保存会員にしてみれば、稽古で徹底的に厳しく指導され、さらに実力のある者のだけが「ひのき舞台」(天満宮舞臺)に上がれることが許されるのであって、稽古は厳しいのが当然のことだったのである。

三 競争心の芽生え

子ども六齋会では、四つ太鼓や六つ太鼓を叩く順番は年齢順を基本としているが、低学年でも実力がある子は必然的に後の方に太鼓を叩く場合もある。

学校からは、少し教育的配慮もしてほしいということも聞く。

子どもたちも「楽しい」という理由で稽古に参加しているのであるが、自己実現という観点から見れば、練習の成果が身に付くことによつて、これまででできなかった技ができるようになることや、他の子どもたちがより上手く太鼓を叩きたいと思うようになるのも自然なことである。

こうした意識は、小学校の高学年になると意識が芽生え始めてくる。

四つ太鼓、六つ太で

最後に叩くことを「あげ」と呼ばれ、技術が高い人が選ばれる。

例えば、小学生でも高い技術を持ち、四つ太鼓、六つ太鼓の「あげ」を務める子どもがいる。

保存会員の祖父から幼稚園時代から太鼓を教えてもらっている子は、「他の子どもには負けたくない」と思うのも当然である。

古くから保存会に関わってきた人たちからすれば実力主義はあたり前のことであり、また、演じる子どもたちの中にも「他の子どもたちより上手になりたい」という競争心を持つ子どもも現れてくる。

しかし、できるだけ平等に叩かせてあげたいという教育的配慮もあり、指導の難しさが発生している。

また、太鼓の上手な子を最後の「あげ」に抜擢されることを、子どもたちに理解をさせるのが難しいと聞く。

子どもたちが自己実現の場であるという側面を持つ以上、このような「実力主義」と「平等主義」の間で問題が生じてしまうのは避けることができないのである。

第37号につづく

法被はっぴを着てお神輿みこし活の一部です。お祭りおまつりは、とても身近なもので、なくてはならない生活の一部です。

私はこの吉祥院の地で生まれ育ちました。結婚してからもずっとこの地域にお世話になっております。



まつりの思い出

メナドフェイシャルサロン moco moco
Murata Makiko
オーナー 村田 牧子 さん

京都市南区吉祥院春日町19-45 代表 ☎ 075-671-2696



の綱つなを引っ張るのが大好きで、お友達と一緒に大きな声で「ワッショイ、ワッショイ」と声を揃えて言うのがたまらなく好きで楽しかったですね。その法被はっぴを母が大切にしまつてく



と太鼓たいこの音が聞こえると気持ちがいりました。特に、最後の獅子舞しし舞はとてもカッコ良かったですし、土蜘蛛つちぐもと獅子ししの絡みからみで、蜘蛛くまの糸いとを「シャ」と撒まくところが最

高たかでした。このように私が大好きな六斎念仏ろくさいねんぶつ踊りおどりは、家族みんなも大好きです。今でも夏まつりになると息子達家族もみんな集まって、天満宮てんまんぐうに観に行きます。私の長男ながおとこ（大輔だいすけ）もこの獅子舞しし舞をお友達と一緒にずっと演うじさせてもらっています。嬉しい事ことですが、いつもハラハラドキドキしながら観ています。（笑）この伝統文化をずっと守り続けてこられた人々のお



吉祥院子ども六斎

かげで、家族みんなみんなで楽しめています。感謝かんしゃ致します。息子達こどもたちも次の世代せだいに受け継つがれていくような活動も頑張がんばってくれます。凄い事ことです。これからも六斎念仏ろくさいねんぶつ踊りおどりの継承けいせいと発展はつてんを心こころから願ねがっていますし、応援えんぎょう致いたしております。ありがとうございます。います。

MEVARD Facial Salon

メナドフェイシャルサロン moco

メナドフェイシャルサロン（moco）は、JR西大路駅から徒歩7〜8分の場所にあり、東出口を出て、徒歩1分の閑静な住宅街の中にある隠れ家的なサロンです。美肌のプロフェッショナルのスタッフが、その人に合った施術を行います。

ナルであるエステセラピストの手による癒しのひと時をぜひ皆様もご堪能してみてください。いかがでしょうか。また、美肌づくりの「コツ」などを伝授していただけます。

その人に合った施術を行います。

カウンセリングなどをお受けください。お気軽にお越しください。お待ちしております。

MEVARD Facial Salon

かげで、家族みんなみんなで楽しめています。感謝かんしゃ致します。息子達こどもたちも次の世代せだいに受け継つがれていくような活動も頑張がんばってくれます。凄い事ことです。これからも六斎念仏ろくさいねんぶつ踊りおどりの継承けいせいと発展はつてんを心こころから願ねがっていますし、応援えんぎょう致いたしております。ありがとうございます。います。



獅子と土蜘蛛

毎年四月二十五日、八月二十五日に吉祥院天満宮で奉納される「吉祥院六斎念仏踊り」。
（左写真 演目「獅子と土蜘蛛」
獅子を演じる村田牧子さんの長男村田大輔氏（前）と獅子の如く会長木村信彦氏（後）

- * 営業時間：9:00~20:00
- * 定休日（日）ご相談に応じます。
- * 駐車場：なし…「P」をご案内します。
- * カード支払は可（商品代金のみで施術代金は現金払い）
- * 仮予約、問い合わせ；代表 TEL 075-671-2696 まで